

札幌組報



なごみ

2015年03月25日

第53号

浄土真宗本願寺派北海道教区

札幌組実践運動委員会

広報委員会

札幌組 HP

<http://www.onishi.or.jp>

札幌組々長 ごあいさつ

平素より組運営に特段のご配慮を賜っておりますこと、深くお礼申し上げます。

昨年、宗門では6月に法統継承式が勤修され、第25代専如上人がご門主に就任されて新しい時代がスタートしました。札幌組では、今年度4月より実践運動委員会の組織体制が見直され、活動の部門ごとに各教化団体とより細やかに連携した活動ができるこをを目指し8部1委員会制となりました。この新しい組織体制によって、今年度も多くの活動ができました。

青少年部ではデイキャンプやなむ茶カフェの新しい活動。研修部では、教区パイロット版研修会と併修された「葬儀」をテーマにした僧侶研修会・新年会。壮年部を主幹として総代会・婦人会と併修した北海道教区仏教壮年研修大会には、予想を超えた多数の参加者がありました。連研も毎回参加者からの貴重な意見が会報で報告されました。重点プロジェクトでは、東日本震災をはじめとする被災者への支援活動として福島支援事務所での報恩講、浪江町常福寺清掃奉仕に行くことができました。1部単独の活動ではなく複数部による共催は、参加の対象が区別されずに誰でも参加しやすい活動になったのではないかと思います。これからも僧侶・坊守・寺族・門信徒が限定されることなく、ともに御同朋の社会を目指して活動を実践してまいりましょう。



札幌組々長

野口 宗英

『なむ茶カフェ vol.1』 【寺院師弟】 青少年部活動報告



平成27年2月28日、「なむ茶カフェ vol.1」が開催されました。

中央区南8条西5丁目にあるおしゃれなカフェ『エモンズ・シュシュ』さんの2階をお借りして、25名（大人14名、子供11名）にご参加いただきました。

子供たちはキッズルームで仲良く遊び、大人はおいしいケーキやコーヒー、紅茶をいただきながら、bingoやゲームで楽しく盛り上りました。2時間という限られた時間ではありましたが、和気あいあいと過ごすことができ、改めて朋友の大切さを実感したことあります。7月に開催されたデイキャンプとほぼ顔ぶれが同じでしたが、今後は新たな顔も見られるよう企画させていただきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願ひ致します。

第13回北海道教区仏教壮年研修大会開催 壮年部活動報告

【札幌組壮年の集い・総代部・仏教婦人会連盟】三部合同研修



両日 講演

ご講師 釈 徹宗 師



1日目講演

浪曲 春野 恵子 さん (左)



三味線 一風亭 初月 さん (右)



2日目講演

落語 桂 雀々 師匠

平成27年2月21・22日の両日にわたり、札幌パークホテルを会場に「第13回北海道教区仏教壮年研修大会」が開催されました。この度の大会は開催時期が冬期であったにも関わらず、天候にも恵まれ全道より427名が参加し、札幌組内寺院の絶大なるご協力により24ヶ寺より282名ものご参加でした。

今回大会は、札幌組の壮年会単位会登録寺院4ヶ寺の会員35名が実行委員となって大会のすべての運営を行いました。また、札幌組が主幹であったことから、札幌組総代会、札幌組仏教婦人会連盟からも後援並びにご協力をいただき、三部合同の研修とさせていただきました。

1日目は、釈 徹宗師（如来寺住職、相愛大学人文学教授）と浪曲師の春野恵子さんをお招きしました。まず釈師による講演があり、引き続き迫力のある浪曲、最後は対談をしていただきました。研修終了後は、同ホテルにて懇親パーティも開かれ、大いに盛り上りました。2日目、初日同様に釈師の講演があり、続いて落語家の桂雀々師匠の落語、対談をしていただきました。会場はたくさんの笑いに包まれ、両日ともに盛会に大会が終了致しました。

今大会の主旨には「壮年会の単位会登録を増やそう」という願いもありました。この機縁によって少しでも組内に単位会登録が増えることを念願いたします。



1日目の釈師と恵子さんとの対談は、釈師の書かれた書籍の内容について質問されるところもありました（中央）。2日目の雀々師匠との対談では、お説教と落語の関係をお話していただけました（右）。

大会実行委員長のご挨拶
宮崎英治氏（真願寺壮年会会長）



壮年会会員である大会実行委員の皆さんによるお勤め

札幌組 災害支援旅行 東日本震災をはじめとする被災者への支援活動報告



札幌組では「御同朋の社会を目指運動」の一環に、重点プロジェクトとして企画された「東日本震災をはじめとする被災者への支援」活動を行っています。

今年度は平成26年11月18日～20日までの3日間、福島復興支援事務所・相馬組常福寺（福島県浪江町）を訪ねて参りました。参加者は野口実践運動委員長をはじめ、総代・部員の8名でした。1日目は、復興支援事務所において相馬組常福寺の報恩講が勤まりました。法要後には「世界

に1つだけの腕輪念珠をつくりましょう」と、仮設住宅や避難先の遠近各地より久しぶりに駆けつけたご門徒の方々と楽しい交流を深める事ができました。2日目は、廣畠住職より浪江町およびその付近の現状について説明をいただきました。現在でも避難の中にある方々は約8万人以上で、さらに、帰ることができないと見込んで自主的に引っ越された方々を含めると、その倍以上おられるという現状を聞いて、今更ながら危害の大きさを実感しました。また、道中にある高線量を詰めた黒い袋を見ると「いつになつたら処分されるのか。本当に以前のような農作業ができるようになるのか」と様々に考えさせられました。常福寺では境内の清掃と軽作業のお手伝いをさせていただきました。3日目は、仙台別院と専能寺に参拝しました。そこでは、昨年10月に「復旧復興のボランティアにお礼を」と、北海道参拝してくださった皆さんにもお会いすることができました。



今年度の災害支援旅行では、まだ手つかずの地区などをみて「復興はまだまだ始まったばかり」と改めて心打たれました。これからも自他共に心豊かに生きることのできる社会を願って被災地区に思いを寄せていくたいと思います。

仏婦連盟研修会「たのむより さきに」 婦人部活動報告

平成26年6月3日午前11時からの総会後、午後1時より研修会が会員他176名参加のもと開催されました。今回は総代会総会も同日開催（社会部・総代部共催）のため、総代の方々にも参加いただきました。

札幌組の重点目標でもある東日本大震災被災者支援の取り組み推進のため、講師には被災された寺院で北海道に縁が深い東北教区宮城組専能寺住職 足利一之 師をお招きました。講題は「たのむより さきに」～泥の中より救われて～と、自身の本堂・庫裡・会館・墓地などを地震と津波により被災された状況と被災後直ぐに支援をいただいたこと、現在の復興状況などをお話しいただきました。「震災当時のことを思うとその悲惨な状況は言葉では伝えきれない、そして多くの方々の支援に感謝の気持ちを忘れずに後の世まで伝えていきたい」と思いのこもった言葉が大変印象的でした。また、参加者全員には感謝の気持ちを表すために1人ひとりに笹かまぼことお菓子をいただきました。



北海道教区 A ブロック僧侶研修プログラム 研修部活動報告

平成 26 年 7 月 22 日札幌別院において備後教区三次組東光坊住職坂原英見さんをお招きして、29 名（門徒 9 名）の参加者と共に過去帳開示の問題点、『觀無量壽經』の「旃陀羅」発言問題から「經典と差別」について学びを深めることができました。

続いて平成 27 年 2 月 2 日札幌パークホテルにおいて教区 A ブロック僧侶研修会パイロット版（各組役職者及び研修団講師）と併修して僧侶研修会及び新年会を開催しました。北塔光昇勤学、伊澤淨雄教区勤式指導員、忍闘崇教布教団副団長のお三方を講師にお迎えして、49 名の参加者と共に教学、法式、伝道の部門から「葬儀」についての問題提起、勤式と布教の実践及び実例を学ぶことが出来ました。

研修後は、別会場において新年会を開き、bingo ゲームで和やかな雰囲気の中、幕を閉じることが出来ました。



『ディキャンプ～自然の恵み、いのちの育み～』 青少年部活動報告



平成 26 年 7 月 20 日、サッポロさとらんどに於いて寺院子弟を対象とした「ディキャンプ～自然の恵み、いのちの育み～」が開催されました。

32 名（大人 20 名、子供 12 名）のご参加をいただき、バーベキュー やゲームで楽しく盛り上りました。自由時間にはレンタル自転車に乗ったり、キャッチボールやサッカー、収穫体験など、それぞれに楽しんでいました。初対面の子供たちも多かったと思いますが、みんな仲良く、伸び伸びと、食べて飲んで、元気良く遊んでいました。

青少年の育成は、私たちにとって大きな課題であります。様々なイベントを通して、1 人ひとりが問題意識を共有し、共に歩んでいることを実感していくことが大切なことだと思います。

今後も 1 人でも多くの方にご参加いただけるよう企画、開催させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。



第16期 連続研修会 連研部活動報告

第 16 期連研（第 7 回より第 12 回並びに補講）を 4 月より 10 月にかけて開催。11 月には門徒推進員・連研履修者合同研修会（連研補講を兼ねる）を藤田徹文師を御講師にお迎えし「信心さだまるとき、往生また定まる」をテーマに開催されました。また、平成 27 年 1 月 21 日～25 日、本願寺聞法会館で執り行われました「中央教修」に連研修了者 3 名の方が参加させていただきました。



編集後記

札幌組報なごみ 53 号を皆様のお手元にご送付させていただきました。例年 12 月中に送付しておりましたが、諸事情より慌ただしい時期になりました事、ここにお詫び申し上げます。

また今号のなごみは、ページを減らし、その分、印刷を増量することで、各寺院にお届けできる冊数を増やす試みを行いました。これは実践運動委員会各部の活動を、僧侶・坊守・寺族・ご門徒など、より多くの皆様にお伝えさせていただくためです。どうぞご高配を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。